

飯田市次世代育成支援対策地域協議会
飯田市社会福祉審議会児童福祉分科会
(飯田市版子ども・子育て会議)

- 1 日時 平成 26 年 5 月 14 日 (水) 10 : 00 ~ 12 : 00
- 2 場所 飯田市役所 3 階 301 会議室
- 3 出席者 (委員) 菅沼委員、長谷川委員、岡田委員、長沼委員、市村委員、大宮委員、代田委員、矢澤委員、木村委員、園原委員
(委員以外の出席者)
みんなで子育て応援サポーター (次世代育成支援対策地域協議会作業部会) ※敬称略
上河内、木下、高橋、平沢、水口、宮嶋、新實、殿倉
(事務局) 高田健康福祉部長、伊藤子育て支援課長、倉田子育て支援課長補佐兼保育施設担当
専門主査、今村子育て支援係長、中平保育係長、澤柳保育係長、原保健課課長補佐
兼保健指導係長、熊谷産業振興課課長補佐兼労政係長、小笠原学校教育課課長補佐
兼保健給食係長、伊藤生涯学習・スポーツ課課長補佐兼地育力向上係長

4 協議事項

- (1) 平成 25 年度 次世代育成支援飯田市行動計画 (新すくすくプラン後期計画) の進捗状況について
- (2) 次期計画の策定について
 - ア 計画策定の進め方について
 - イ 次世代育成支援飯田市行動計画と飯田市子ども・子育て支援事業計画の関係について
 - ウ 子ども・子育て支援法に基づく基本指針 (案) について
 - エ 教育・保育提供区域について
 - オ 子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果について
- (3) (仮称) こども家庭応援センターについて
 - ア (仮称) こども家庭応援センターの概要
 - イ 先進地視察について

5 会議内容

- (1) 平成 25 年度 次世代育成支援飯田市行動計画 (新すくすくプラン後期計画) の進捗状況について
 - 事務局 配布資料を用いて内容説明
 - 委員 質問・意見なし
- (2) 次期計画の策定について
 - ア 計画策定の進め方について
 - 事務局 配布資料を用いて内容説明
 - 委員 質問・意見なし
 - イ 次世代育成支援飯田市行動計画と飯田市子ども・子育て支援事業計画の関係について
 - 事務局 配布資料を用いて内容説明

○委員 質問・意見なし

ウ 子ども・子育て支援法に基づく基本指針（案）について

○事務局 配布資料を用いて内容説明

○委員 質問・意見なし

エ 教育・保育提供区域について

○事務局 配布資料を用いて内容説明

○委員 質問・意見なし

オ 子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果について

○事務局 配布資料を用いて内容説明

○委員A【質問・意見】

- ・ニーズ調査結果について、子育て支援の全般的な満足度が良いと答えた人は17.7%だが、良いと答える方は収入がある人という解釈がとれるのか。

⇒事務局

示した結果は単純な集計結果。今後、クロス集計ができれば、それによって細かな分析が可能となり、収入の状況もわかってくる。

- ・ニーズ調査結果4ページを見ると、子ども一人ないし二人、三人以上というのは、現在の世の中で一人二人では少子化になるのは目に見えている。3人以上の方に対する優遇措置が必要になる。保育料の面などで、対応していただければ良いと思う。子どもが3人以上いる方々への保育料の優遇措置の具体的な取り組みについて聞きたい。

⇒事務局

平成25年度に、19年度の改定以来の保育料の減額改定を実施しており、一括引き下げと併せて、18歳未満のお子さんで、上から数えて3人目の方は2割の軽減、4人目が7割の軽減、5人目以降が無料という優遇措置を実施。他の自治体に比べても、非常に良い優遇措置という認識。

- ・生活保護の周知の徹底について、生活保護について知らない人がいる中でどのように対応しているのか

⇒事務局

一人親の方、生活にお困りの方が生活保護について知らないという状況については、今後とも周知に努めていきたい。

- ・子ども貧困対策法という法律が施行されると聞いたがどのようなものなのか

⇒事務局

子ども貧困対策法については把握していない。調べて次回の会議で回答したい。

○委員B【質問】

- ・ニーズ調査結果の24ページの地域の子育て支援事業の状況について。結果からみると、利用していないという方が80%いるが、18ページをみると認可保育園に80%の子どもが通っている。子どもの80%は保育園に入っているという数値からみると、つどいの広場の利用をしている19%という数値は実際

はもっと多いのではないか。あくまでも、この数値は総数であって、対象になっているかどうかというところはここの表からはみられないという見方で良いか。

⇒事務局

仰る通り、地域子育て支援事業と保育所の利用が2割と8割となっているが、この2割と8割は必ずしも全く同じという形ではない。ここはクロス集計が可能だが、少しずれがあると思うので、この数字が実際の利用率ということではない。実際に昼間（保育園・幼稚園等へ）行っている方を除けばもっと利用率は高くなると考えている。

- ・ニーズ調査結果の42ページで、望ましい利用形態というところで、大規模施設で子どもを保育する事業というのは飯田市としてはどういう定義を持っているか。小規模施設は国が定める概念で良いか。

⇒事務局

79ページにアンケートの質問票がある。大規模施設の定義は、例として幼稚園、保育園となっているので、幼稚園・保育園をイメージされて選ばれた。一方小規模ということになると、つどいの広場等が載っているので、つどいの広場などをイメージしてお答えになったと考えている。

(3) (仮称) こども家庭応援センターについて

ア (仮称) こども家庭応援センターの概要

イ 先進地視察について

○事務局 配布資料を用いて内容説明

○委員A【質問】

- ・直接関係は無いが、りんご庁舎の駐車場は1時間は無料だが、それ以上かかる場合に減免措置がある等の考えはあるのか。会議などがあつた場合も現在通りという考えか。

⇒事務局

これからの検討材料として考えたい。

○サポーターA【質問】

- ・資料12ページ、2の平面計画で、キッズルームは「子育て相談会や育児講座をはじめとした様々なことを行える場所とする」となっている。14ページのこども家庭応援センターのあり方の所で、主な役割が親子のつどいや交流会、ミニコンサート等の季節のミニイベントを行うなど、子育て支援団体やサークルの活動の場とするとなっている。母親の視点で考えると、このような活動をする前にもっと母親がしやすい、通常、親子で過ごす場があつた方が、キッズルームは利用しやすい。すすくサロンにおいてもそうだが、つどいの広場のようなものがここにないと、使いにくい、利用しにくいと考える。

⇒事務局

これからの検討となるため、りんご庁舎、3階の会議室の活用なども含めて集まっていたけりようなものを作りたいと思っている。またアイデアをいただきたい。今のご意見も参考にさせていただく。

○委員C【意見・質問】

- ・未就園児の教室をやっている。どこの保育園もどこの幼稚園も未就園児の教室を開いている。市の方からも補助をいただいているが、そのためにかなり大きなエネルギーが園としては必要。職員の配置と、それからいろいろな環境の整備のための工夫をしている。手作りのものを増やしたり、いろいろな形で来ていただきたいなと思っているが、そういう施設が飯田市の中にも数がたくさんあるので、利用者がまばらに分散される。そういうときに、今実際、保育所や幼稚園にあるところが十分な利用になっていない気がする。数だけ増やすのではなく、充実ということであれば、そういうところを市の方で見に来ていただいて、どこの園がどういう未就園児に対して支援をしているか、子育て支援をしているかというところをもう少し広く大きく、調査をしていただきたい。書類だけの報告に今なっているが、現実には書類の文字であらわせない。さまざまな苦勞があったり、準備に時間がかかっていたりしている。そういうことも各園が負担を感じながらそれでも子育て支援のために開いている。お母さんたちもいろんな園に行っており、それくらい必要だとは思うが、今やっているところがどういう内容でどういうことをしているかということをもう少し、市の方たちの目で実際に見ていただけたら、もう少し充実できるものが増えていくのではないかな。

⇒事務局

ぜひ現場の状況を見させていただきたい。

○サポーターA【意見・質問】

- ・資料12ページ、2の平面計画の子ども家庭応援センターの相談の窓口についてだが、発達に心配のあるこどもを持っている母親の場合、もしかしたら子供に普通と違うなと思った場合、窓口があるのがわかっているけど、なかなかこの窓口で相談するのは敷居が高い。この配置だと母親が入って行きにくいと、私ならそう考える。もう少し相談しやすいような、相談に入りやすいような、そのような雰囲気をつくっていただけるようにしていただけたらと思う。

⇒事務局

具体的にアイデア等をいただきながら、視察等でも見ていきたい。検討できればなと思っている。

○議長

- ・具体的な例があればお出しいただきたい。

○サポーターA【意見】

- ・例えばつどいの広場のようなところで、親子で過ごしながら子どもがそのあたりで遊びながら相談員さんに相談できるような状況から相談窓口へとつなげていただける方がいると、とても利用しやすいし、安心して相談ができる環境になると思う。